

金沢健一 Kanazawa Kenichi

振動という出来事

2020年10月6日(火)–25日(日) 月曜休館

観覧無料

川越市立美術館 企画展示室

金沢健一 Kanazawa Kenichi

振動という出来事

2020年10月6日(火)–25日(日)

9:00–17:00 月曜休館 (最終日は関連イベントのため 15:00 まで)

川越市立美術館 企画展示室 (観覧無料)

主催:金沢健一 共催:川越市立美術館

「振動」の現象を、鉄という素材をとおして捉えてみる。

バネで支えた9mm厚の鉄板の上に白い粒子を撒き、スーパーボールでこすり振動させると、唸るような音と共に白い粒子は凝集し、そこに不思議な図形が現れる。(右写真)

鉄板はどのように振動しているのだろうか？

鉄板に触れてみると、図形が現れている部分は振動しておらず、その周りの部分が振動している。

この現象は「クラドニ図形」と呼ばれ、200年ほど前にドイツの科学者クラドニ(Chladni)により発見された現象である。スーパーボールの大きさや鉄板のこする場所、鉄板の形によりこの図形も変化する。

本展ではクラドニ図形を利用して描いたドロ잉を中心に立体、映像、ワークショップ、さらにパフォーマンスをとおして「振動」が作り出す形や音の宇宙を体験する。

芸術の目と科学の目の交わりの領域を探る。

【関連イベント】

※新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドラインに則り、各会場の定員を遵守して実施します。

■ワークショップ 「振動のかたち—クラドニ図形つくる」 講師: 金沢健一

内容: 振動の物理現象である「クラドニ図形」を体験するワークショップ。円、正方形、長方形、不定形の鉄板を振動させて様々なクラドニ図形を作ります。

日時: 10月18日(日) 10:00~16:00 講師: 金沢健一

会場: 川越市立美術館 創作室

対象・定員: 中学生~大人・10名(先着)

参加費: 2,000円(材料費)

申し込み: 10/1(木) 9:00から、電話、FAXにて美術館まで。

■パフォーマンス 「振動という出来事」 出演: 金沢健一

内容: 鉄板の振動といういろいろな素材やモノとの接触から得られる音や視覚的な現象を探るパフォーマンス。

日時: 10月25日(日) 15:30~16:30 無料

会場: 川越市立美術館 企画展示室

定員: 40名(先着)

申し込み: 当日13:00から整理券を配布します。

[交通案内]

- 東武東上線・JR 埼京線(川越線)「川越駅」西口2番のりば、西武新宿線「本川越駅」から小江戸巡回バスで「博物館美術館前」下車
- 同「川越駅」東口3番のりばから小江戸名所めぐりバスで「博物館前」下車
- 同「川越駅」東口7番のりば、「本川越駅」5番のりばから東武バス「川越運動公園/埼玉医大/上尾駅西口」行きで「市役所前」下車徒歩5分
- 同「川越駅」東口1・2・4・5・6番のりば、「本川越駅」5番のりばから東武バス「蔵のまち」経由で「札の辻」下車徒歩8分

川越市立美術館

〒350-0053 埼玉県川越市郭町 2-30-1
tel.049-228-8080 fax.049-228-7870
<https://www.city.kawagoe.saitama.jp/artmuseum/>



振動態—円900によるクラドニ図形

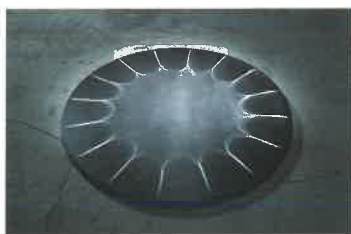


photo 多羅尾牧洋

金沢健一

1956東京生まれ。1979東京藝術大学工芸科鍛金専攻卒業。1981東京藝術大学大学院美術研究科修了。現在、多摩美術大学、東北芸術工科大学非常勤講師。

工業製品としての金属を素材に、幾何学的な形態による構成的な作品、それと並行して不定形に熔断した鉄板から音を発見する《音のかけら》、振動の物理現象であるクラドニ図形を利用した《振動態》など視覚、聴覚、触覚を結びつける作品を制作する。美術館、画廊などで展覧会、パフォーマンス、ワークショップを展開している。2000年以降の主な展覧会として「ラボラトリ2 共鳴する空間 金沢健一 音のかけら」新潟市新津美術館(2000)、「はがねの変相—金沢健一の仕事」川崎市岡本太郎美術館(2002)、「金沢健一 音のかけらとワークショップ展」川越市立美術館市民ギャラリー(2006-10)、「川越の美術家たち 金沢健一展 出発点としての鉄 1982-2011」川越市立美術館(2011)、「美術と音楽」群馬県立近代美術館(2016)がある。

